

県内企業2021年3月期決算

	売上高	経常損益	純損益	配当
バローHD				
(連) 730,168	(7.7)	28,397 (68.2)	12,592 (94.4)	54.00
(予) 732,000		25,000	12,000	56.00

【注】単位は百万円、%、配当は円。(連)は連結、(予)は2022年3月期予想。かっこ内は前期比増減率。配当の下段は年間配当予想。

21年3月期

売上高7300億円最高
巣ごもり特需が寄与

バローホールディングスが12日発表した2021年3月期連結決算は、売上高に当たる営業収益が前期比7・7%増の7301億6800万円と過去最高を更新した。26期連続の増収で7000億円を突破。コロナ禍による巣ごもり特需や生鮮食品強化が寄与し、スーパーマーケット(SM)、ドラッグストア(DS)、

ホームセンター(HC)の主要3事業の既存店売上高が伸びた。店舗閉鎖やスポーツクラブの営業自粛で減損損失28億4300万円を計上したが、増収効果で純利益は2期ぶりの増益。営業、経常、純利益も過去最高となった。

DS事業は生鮮強化を目的に店舗改装を進め、鮮魚、青果の箱売りが堅調に推移。外出自粛によるまとめ買い、プライベートブランド商品の改良といった商品力強化も貢献し、営業収益は6・3%伸びた。

DS事業は、化粧品や医薬品が伸び悩んだ一方、マスク、除菌関連商品を中心に売り上げが増加。新規出店効果やアプリを活用したデジタルマーケティングが

奏功し、営業収益が8・0%増えた。HC事業は巣ごもり特需や生活様式の変化で園芸、DIY、アウトドア用品が好調。オンライン販売も伸びて営業収益は13・9%増加した。スポーツクラブ事業は休業要請を受けて最大181店舗で営業を自粛し、減収となった。

損益面はDS事業は減益、スポーツクラブ事業は赤字となったが、SM、HC事業で売上総利益率の改善と経費率の低減が進み、営業、経常利益は3期連続の増益。広告宣伝費の抑制も増益に寄与した。

店舗はSM4店、DS40店など計80店を新設、29店を閉鎖した。3月末のグループ店舗数は1226店。剰余金の配当を行うこととし、期末配当を前回発表の28円から1円増配し29円、22年3月期の年間配当予想

を56円とした。

22年3月期はSM5店、DS30店など計67店の新設を計画。SM既存店の改装を進める一方、広告宣伝費などの経費が増えることから増収減益を見込む。